

非正規労働の現状と労働組合の対応に関する国際比較調査報告書

「非正規労働の現状と労働組合の対応に関する国際比較調査委員会」(*主査)

毛塚 勝利 (法政大学大学院客員教授)

有田 謙司 (西南学院大学教授)

榊原 嘉明 (名古屋経済大学准教授)

井川 志郎 (山口大学専任講師)

後藤 究 (中央大学大学院博士後期課程)

小西 啓文 (明治大学教授)

石田 輝正 (連合非正規労働センター局長)

藤木 貴史 (一橋大学大学院博士後期課程)

(役職名は2017年10月時点)

日本のみならず世界各国において、フルタイムで期間の定めのない典型雇用以外のパート労働、派遣、有期雇用等様々な形の非典型雇用が増加している。また、近年では、従来の「委託契約」による雇用の枠を超えた「独立自営」といわれる境界領域の就業形態も増加してきている。こうした労働者は、従来の集団的労使関係の枠組みから排除されがちで、多くの場合、雇用は不安定であり、労働条件も低く、本来は最も労働組合を必要とする労働者である。しかし、こうした労働者には労働組合による包摂と支援がいきわたっていないのが現状である。

連合総研では、労働組合が非典型の増加にどのような問題認識を持ち、具体的にどのような取り組みを進めているのか、こうした観点から国際比較調査により非典型労働の実態、政策課題の認識、労働組合の対応など、その特徴や課題を明らかにすることを狙いに、「非正規労働の現状と労働組合の対応に関する国際比較調査委員会」を設置し、論議してきた。

また、この研究は、連合総研30周年記念研究事業の一つとして行われたものであり、2015年のドイツ、16年のイギリスの現地調査を含め2年余にわたり幅広い調査研究を行ってきた成果である。

目次

序章 課題設定と総括

第I部 ドイツの非正規労働と組合政策

第1章 ドイツ非正規労働の動向と政策の現在

第2章 ドイツ労働組合の非正規労働への認識と対応 - 組合インタビューを中心に

第3章 ドイツにおける労働者類似の者のための労働協約の分析 - 公共放送局における協約政策に着目して

第II部 イギリスの非正規労働と組合政策

第4章 イギリスにおける非正規労働の現状と法的規制の焦点

第5章 イギリス労働組合の非正規労働への認識と対応 - 組合インタビューを中心に

第6章 「労働改革マニフェスト」にみる非正規労働をめぐる法政策

第III部 新たな非正規労働をめぐる今後の課題～企業境界政策型・情報技術規定型を中心に

第7章 ドイツにおける「請負契約」(社外労働者・個人就業者)の拡大と組合政策

第8章 社会保障法領域における非正規労働者と「新しい自営業者」の増加の課題

第9章 アメリカにおけるギグ・エコノミーをめぐる政策議論 - 技術規定型非典型労働の課題